

1 単元名 かくされた本当の気持ちを『心の吹き出し』に書き表そう。

教材名 一つの花

2 単元の目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】(1)オ
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。【思考力・判断力・表現力等】C(1)オ
- ・積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えを持ち、学習の見通しをもって、心に残った場面をもとに、吹き出しに書き表そうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 指導事項に合致した言語活動とその特徴

指導事項に合致した言語活動として「登場人物の、本当の願いや気持ち（本心）を考えて、吹き出しに書く活動」を位置付けた。登場人物の願いや気持ちを、言葉や文章にして表現しやすくするためには、その時の情景が想起できるような場面を限定させ、視覚化する必要がある。また「吹き出し」で表現することで、登場人物に感情移入しやすくなり、セリフの裏に隠された本心を考える「深い学び」につながる。これらの特徴から、この言語活動を位置付けた学習活動を展開することで「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる」という目標を達成できる。

4 単元について

(1) 教材観

「一つの花」という物語は、戦中、戦後に生きた家族の姿を描いた作品である。主に二つの場面で構成され、前半は戦時中のお父さんとお母さんのゆみ子への思いが中心に描かれ、後半の場面は、十年後のゆみ子の成長した姿が描かれている。最も象徴的なのは、戦争に行くお父さんがゆみ子に一輪のコスモスの花を渡す場面である。一つの花にこめたお父さんの思いがこの物語の主軸になっているといえる。にっこり笑って戦争に行った父親の姿、そして戦争によって命を落とした父親の姿からは、戦争の悲惨さがうかがえる。しかし、物語が伝えているのはそれだけではない。十年後の場面の「コスモスの花でいっぱい」や「コスモスのトンネル」という表現、そしてスキップをしながら明るく買い物に出かけるゆみ子の姿がそれを表している。二つの場面を読むことで、戦争を生きた人々の思い、そこから立ち直るたくましさや未来への希望を表した作品と言える。

(2) 児童の実態（男子12名、女子9名、合計21名）

「読むこと」の意識調査の考察や、記述することについての実態調査は、省略させていただきます。

(3) 指導観

・研究仮説より

「学んだ知識や自分の体験を振り返ることを積み重ね、つけたい力を明確にして言語活動を行えば、自分の考えを形成し表現できる児童になるだろう。」

上記の研究仮説を検証する手立てとして、以下の3点に取り組む。

① 既習事項を視覚化する

仮説内の「学んだ知識や自分の体験を振り返る」ために、既習事項（語彙や語句、道徳で考えた自分自身のこと）を掲示物として整え、視覚的に振り返りやすい環境を作る。また「新聞記事（写真）への吹き出し活動」を行う。本校の今年度の取り組みの一つである「NIEタイム」の常時活動の一つとして、新聞記事（写真）に吹き出しをつくり、写真に映る物事が「何を言っているか・何と言おうとしているか」を想像する活動である。この活動は、「初見での吹き出し記入→新聞記事を読んで再考→再度吹き出し記入」という手順で進める。

② 「自分自身を振り返る」常時活動

常時活動として「自分の経験・体験を振り返って、書く」という活動を充実させる。朝の会では、新聞記事を使った1分間スピーチを、家庭学習の一つとして「日記」を書く活動にも取り組む。学習の中では「学習の振り返り（メタ認知）」を国語科だけでなく、算数科や社会科でも取り入れる。学習前後、単元前後の自分自身を振り返らせ、児童自身の考えを充実させる一助としたい。

③ 児童の心に刺さる言葉

仮説内の「つけたい力を明確にする」ことは、指導内容の明確化だけでなく、児童の学習内容の明確化にもつながる。本単元では「読んだ」ことを「書く」ことで表現させる。単元名や学習中の発問等、児童が進んで学習に取り組めるような言葉選びを工夫したい。

・児童の実態より

児童の知識（漢字の読み書き）や語彙力、文章の構成理解が充実するように「記録と記憶に残る常時活動と学習環境」を整えたい。学習環境では、児童の学習の積み重ねが分かるような教室掲示物を整備する。また、単元ごとに学習した言葉や文法も掲示したい。掲示物を充実させることが、視覚優位や長期記憶が苦手な児童の困り感を減らす要因にもなると考える。さらには「もっと知りたい」、「もっと書きたい」、「友達の考えも知りたい」といった意欲的な態度の醸成にもつなげたい。常時活動では、枠だけの原稿用紙やワークシート等の活用は避け、文

章を書きたくなるような「挿絵」や「吹き出し」を活用していきたい。情報を限定・精選することで、ワーキングメモリが弱い児童の困り感の改善につなげたい。

・教材観より

第一次では、教材の「一つの花」の主な登場人物や時代設定、場面設定、さらには、文章の構成が、戦争中と十年後の場面に分かれていることをおさえる。話の大方の内容をつかむために、毎時間の音読（黙読）だけでなく、家庭学習での音読も並行して行う。また、戦中戦後等の様子を描いた作品を「並行読書」として取り入れ、教材の深い理解につなげたい。

第二次では、本文を4つの場面（1. 家族の食事場面、2. 父がゆみ子を抱き上げる場面、3. 父が戦争に行く場面、4. 十年後の場面）に分けて、登場人物の気持ちや願い、本心を読み取る。まずは、本文の深い読み取りの前に、吹き出しが書かれた場面絵を提示し、気持ちや思いを考える。その後読み進め、登場人物のセリフにサイドラインを引く。また、登場人物がしたことや気持ち、願いが分かる言葉にも線を引く。最後に、場面に隠された登場人物の「本心」を想像し、書き表す。サイドラインは、父・母・ゆみ子を色分けして引かせることで、情報を整理する。想像した本心は「心の吹き出し」として書く。まずは自分で読み取ったことをもとに本心を想像して書き、その後友達と共有する。児童の実態に応じて、ペア共有やグループ共有、全体共有を考えたい。共有後、改めて一人で登場人物の本心を考える。

第三次では、自分が一番心に残った場面やできごとをはっきりさせ、吹き出しに言葉を入れて書き、友達と読み合う。第二次でも同様のことをしているが、単元が進むにつれて、また、友達の考えを聞いたり理解したりするにつれて、自分の考え方が変わったり、深まったりしていることもある。父親や母親、そしてゆみ子の立場になって考えた「思いや願い、本心」を、最後にまとめたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(1)オ	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。C(1)オ	積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えを持ち、心に残った場面をもとに、吹き出しに書き表そうとしている。

6 指導と評価の計画（7時間扱い）

学習過程	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
一次 (見いだす)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・教師見本で、単元のゴールを知る。 「かくされた本当の気持ちを、『心の吹き出し』に書き表そう。」 ・学習計画を立てる。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><発表・振り返り・観察>（第1時）</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を読む。文章の構成（戦争中の場面と十年後の場面がある）を知る。 ・登場人物、時代、主なできごとを確認する。 ・初読の感想を書く。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p><ワークシート・吹き出し>（第2時）</p>
二次 (自分で取り組む) (広げ深める)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵から想像を膨らませ、吹き出しに 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><発表・振り返り・観察>（第3時）</p> <p>【知識・技能】</p> <p><発表・ワークシート・振り返り>（第4時）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p><ワークシート・吹き出し>（第5時）</p> <p>【知識・技能】</p> <p><発表・ワークシート・振り返り>（第6時）</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちや思いを書く。 	
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する場面を黙読する。（1. 家族の食事場面、2. 父がゆみ子を抱き上げる場面、3. 父が戦争に行く場面、4. 十年後の場面） 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフにサイドラインを引く（父・母・ゆみ子を色分けする。）。 ・登場人物がしたこと・気持ちや願いが分かる言葉にサイドラインを引く（色分けも行う。）。 ・サイドラインを引いたところから、登場人物の気持ちを探る。 ・登場人物の「本心」を想像して、吹き出しに書く。 ・友達と共有した後、自分で書き表した吹き出しの内容を再考する。 ・学習の振り返りを行う。 	

三次 (まとめあげる)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が一番心に残った場面を選ぶ。 ・選んだ場面の吹き出しに言葉を入れて書き、友達と共有する。 ・単元の振り返りを行う。 	【思考・判断・表現】 ＜ワークシート・吹き出し＞（第7時）
----------------	---	--	----------------------------------

7 本時の指導 (5/7)

(1) 本時の目標

文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

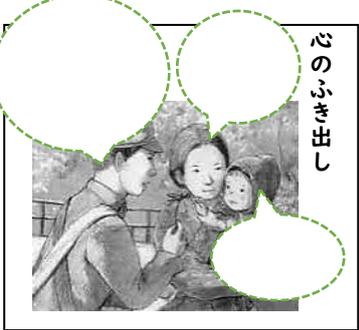
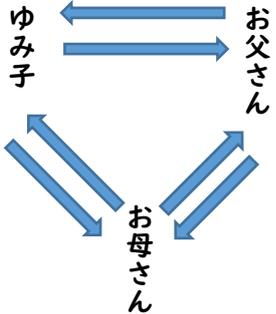
【思考力・判断力・表現力等】C(1)オ

(2) 展開

過程 時配	学習内容と学習活動	指導・支援(○)と評価(◇)	備考
導入 (見いだす) 5分	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の課題をつかむ。 ・「父が戦争に行く場面」の学習であることを理解する。 ・場面を表した挿絵から、気持ちや思いを想像して、吹き出しに言葉を入れる。	○前時は「家族で食事をしていて、父がゆみ子を抱き上げる」場面であったことを想起させ、学習活動を振り返らせる。 ○本文を深く読み取る前なので、挿絵から想像できる範囲の言葉でまとめる。	学習計画表 前時の吹き出し掲示物 本時の吹き出し掲示物
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 戦争に行くお父さんと、見送るお母さんとゆみ子の『心の吹き出し』を書こう。 </div>			
展開 (自分で取り組む) 15分	3 本時の場面を音読(黙読)する。 4 登場人物のセリフにサイドラインを引く。 5 登場人物がしたこと・気持ちや願いが分かる言葉にサイドラインを引く。 6 サイドラインを引いたところから、登場人物の気持ちや思いを読み取る。	○「読み」のスピードには個人差があるので、読み終わった児童から学習内容4に進ませる。 ○サイドラインは、父、母、ゆみ子のそれぞれのセリフで色分けすることを確認する。気持ちや願いが分かる言葉も同様に引かせる。 ○児童の学習過程を明確にするために、気持ちや思いの読み取り結果は、ワークシートに記入させる。	ワークシート
(広げ深める) 20分	7 友達と共有する。 ・グループ→全体の順で、読み取ったことを共有する。	○友達と共有しやすいように、父、母、ゆみ子それぞれが、それぞれに対してどのように思っているのかを明確にさせる。	

<p>まとめ (まとめあげる) 5分</p>	<p>8 登場人物の「本心」を想像して、吹き出しに書く。 ・児童一人一人の学習。</p> <p>9 友達と共有する。 ・全体で、想像したことを共有する。</p> <p>10 吹き出しの内容を再考する。</p> <p>11 まとめをする。 ・学習を振り返る。 わ…わかったこと た…楽しかったこと が…がんばったこと し…知りたいこと や…やってみたいこと ㊦…できるようになったこと</p> <p>12 次回の見通しを持つ。</p>	<p>○グループは3人×7班を編成する。 視覚的に意見共有しやすくするために、各班には、共有用のワークシートを準備する。</p> <p>◇「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。【思考・判断・表現】<ワークシート・吹き出し></p> <p>○指名計画では、本時の評価で、Aと判断する状況にある児童を意図的に指名する。</p> <p>○吹き出しの内容の再考では「再考してもよい。再考する場合は、色を変えて書く。」という内容で指示する。</p> <p>○本時は、㊦…できるようになったことを全員共通で振り返らせ、目標達成の自己評価とする。</p> <p>○他項目の振り返りは裁量とする。</p> <p>○学習の振り返りを発表させ、他者理解を図ったり、振り返りのモデルにしたりする。</p> <p>○次時は、最後の場面の学習であることを予告する。</p>	<p>意見共有用 ワークシート</p> <p>吹き出し入りワークシート</p>
--------------------------------	--	---	---

(3) 板書計画

	<p>㊦</p>  <p>心のふき出し</p>	 <p>ゆみ子 ←→ お父さん</p> <p>お母さん ←→ ゆみ子</p> <p>お父さん ←→ お母さん</p>	<p>戦争に行くお父さんと、見送るお母さんとゆみ子の『心のふき出し』を書こう。</p>
<p>テレビモニター</p>	<p>黒板</p>		

(4) 評価

<p>Aと判断する状況</p>	<p>・学習問題に対して、文中の言葉を引用したり、抜き出したりして、読み取ったことに基づいた感想や考えを書いている。</p>
-----------------	--

B と判断する状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対する、感想や考えを書いている。
C と判断する状況と手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・見当違いな感想や考えを書いている。感想や考えを、書くことができない。 <p>→個別指導で発問し、ワークシートに記入させる。または、ワークシートに別の言い回しの発問を書き、再度記入させる。</p>